

インプラント周囲感染の対処法

—人工関節・脊椎・骨折—

introduction

整形外科手術を行う誰しも、周術期の感染は悩ましいものであります。特にインプラントを使う手術では、感染を起こしたときのショックは、患者はもちろんでありますが、術者にとりましては計り知れないものがあります。超高齢社会の到来により、糖尿病や透析などのリスクが高い例に対して手術を行うことが増えており、感染の危険性が常につきまとう状況になっております。一方、感染コントロールの進歩は目覚ましく、どこの病院でも感染対策の専門家が揃えられるようになってきました。わが国においてもやっと連携して感染をコントロールできる時代が到来いたしました。整形外科におけるインプラントを使用する手術の感染の予防、診断、治療の観点から、現状を総括する必要があると考え、骨・関節感染症の専門の先生方にご執筆を依頼いたしました。

周術期の感染の最も肝要な部分は予防であり、特に高齢者が感染を起こすと日常生活動作が著しく制限され、場合によっては不幸な転機をたどることもあるために、感染は絶対に避けなければなりません。合併症をもっておられる方も多く、体調や薬剤の使い方に細心の注意を払う必要があります。さらには術前の病棟や手術室で感染予防のために取り組む事項も多くあります。予防の項目では、これらのことについて詳述いただきました。また、的確な予防処置がなされていたにもかかわらず、感染徴候が認められた場合は、早期の治療開始のために正確な診断が重要になってまいります。感染の診断について標準的なものから最先端のものまでご紹介いただきました。さらに治療を行う場合は、抗菌薬の選択からインプラントの抜去の必要性の有無など、さまざまな事項を考える必要があります。また、インプラントの種類によっても若干異なってまいります。治療の項目では詳細かつ具体的に記載いただきました。転ばぬ先の杖とは言いますが、もし転んでしまったときの対処法に関してもご熟読いただき、本特集が皆様のお役に立つことを祈念いたしております。

奈良県立医科大学整形外科
田中康仁